

大門課長補佐が強く要請

射幸性抑制への取り組み

「置引き」と「ヤミ賭博への流出」対策も

警察庁保安課、大門雅弘課長補佐は1月14日、日遊協本部会議室で開かれた6団体代表者会議の冒頭に発言し、①射幸性の抑制に関する更なる取組へ現在検討中の事項を早急に実施の上、少額、短時間で遊べる遊技の創設を②置引き対策の取組へ去年も多発状況は変わっていない。早急に具体的な対策(現場マニュアル等)を③ART、ART機等の闇賭博流出を防止する取組へ4号機流出の反省を

踏まえ、撤去遊技機に関する新たな枠組み(機歴管理等)の構築を④の3点について、迅速・的確に検討できる方法・進め方の再考を強く要請した。

6団体、早急に対策

6団体としては、基本的に射幸性の抑制は業界全体(活性化委員会)で、置引き対策はホール団体中心で、ART、ART機等はメーカー・流通中心で検討し、早急に対策を立てることを申し合わせた。同課長補佐の要請要旨は次の通り。

①について:「依存問題として大きく取り上げられ、今年は非常に厳しいと予想している。射幸性・依存問題は去年以上に取り上げられると思われるが、業界の取り組み

みは遅い。ガイドライン、自己申告プログラムが検討されているが、先ずはそれをやり、更なる取り組みをお願いしたい。遊技の射幸性の高さが問題の根幹にあると思われる、現状が社会に受け入れられるものかは疑問であり、改めて少額、短時間で遊べる遊技をお願いしたい」

②について:「去年からいっているが、我々の思いより軽く扱われているのではないか。他の場所では減っているのに、ホールのみが増加しており、依然として厳しい状況が続いている。セキュリティ対策委員会で検討しているが、進んでいない」

③について:「ホールで使われなくなった遊技機をどうするのか。4号機流出の反省を踏まえ、犯罪に流れることのない仕組みを業界挙げての課題として取り組んでほしい。何処でやるのかは、業界で考えてほしい」

問題等を協議した。活性化委員会を構成する6団体の代表として、阿部恭久全日遊連理事長、庄司孝輝日遊協会長、金沢全求日工組理事長、兼次民喜日電協副理事長、中村昌勇全商協会長、伊豆正則回胴遊商理事長が出席した。

活性化委員会の在り方については、現在の6委員(6団体から1人ずつ。ほかに全日遊連から委員長)に6団体の長を加えて、審議・決定のスピード化を図ることを決めた。2月18日に予定する会合から実施する。

3委員会の統合は見送り

主要団体が委員を派遣している横断的3委員会(中古機流通協議会、遊技機リサイクル推進委員会、セキュリティ対策委員会)の統合については、最終的に各団体の意向のズレが解消できず、見合わせることを決めた。統合は昨年春に提起され、3委員会それぞれの審議を経て、昨年10月に統合案「遊技機安全合同協議会(案)」がつけられていた。



業界への要望を行った大門課長補佐(奥右)

6団体代表者会議

「活性化委」に団体の長 審議・決定のスピード化へ

6団体代表者会議が1月14日、日遊協本部会議室で開かれ、遊技

産業活性化委員会の在り方、中古機流通協議会など3委員会の統合

お客様向け「のめり込み対策ホームページ」を21世紀会として作成するよう、活性化委員会で検討作業を進めることを申し合わせた。

遊技産業活性化委員会

「団体トップ参加」を承認 行政要請に迅速対応

遊技産業活性化委員会(委員長・伊坂重憲全日遊連副理事長。全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商で構成)は1月16日、全日遊連会議室で開かれた。前々日14日に行われた6団体代表者会議での確認事項に沿い、活性化委員会の構成を従来の委員に各団体の長を加え、各団体2人(全日遊連はプラス委員長)の新体制にして、審議・決済のスピードアップを図ることを確認した。

新体制は2月18日の会合から実施される。

さらに、6団体代表者会議に警察庁から提出された3件の要請(射幸性の抑制に関する更なる取組、置引き対策の取組、AT機・ART機等の闇賭博流出を防止する取組)について迅速に対応していくことを確認した。

依存対策とWGの報告

各団体の依存問題への対策が報告された。日遊協からは依存問題PT(プロジェクトチーム)が主体となり活性化委員会のWG(ワーキンググループ)としてまとめた「パチンコ店における依存(のめり込み)問題対応ガイドライン(案)」とその日程表、及び開発中の「自己申告プログラム」の途中経過が報告された。遊技機検討WG、遊技産業PRWGから、それぞれの検討状況が報告された。

パチンコ・パチスロ産業賀詞交換会(1月27日)に発表する宣言の内容を検討した。

その他の出席委員とWGリーダー。(敬称略)

阿部恭久、金本正浩、竹田隆(以上全日遊連)、大久保正博、岸野誠人、安藤博文(以上日遊協)、榎本善紀(日工組)、中村昌勇(全商協)、伊豆正則(回胴遊商)

遊技産業PRWG

具体案が出され協議

「休止者対策」と「情報発信」で

遊技産業活性化委員会のワーキンググループ(WG)の1つ、遊技産業PRWG(リーダー・岸野誠人、日遊協理事)は1月28日、日遊協本部会議室で開かれ委員、オブザーバーら29名が出席して開かれた。

「休止者、ライトプレイヤー向けの施策」について、グルメパスポートのような冊子「パチンコミシユラン」を作り、遊技機のタイプ、ホール内の情報、安心安全な環境などを網羅して、お客様になりやすい状況を作る案が提出された。総付け景品でBOXティッシュやPUSHボタンシールを使って3弾に分けリピートサイクルでパチンコに興味をもってもらう案も出た。また、外国人に対応するためのポータルサイト、ウエルカムポスター、ステッカーなどの効果を活かすプレゼンテーションも行わ



「休止者」対策などを協議した遊技産業PRWG

れた。

「社会への情報発信」については、パチンコ産業としてのPRサイトを立ち上げ、パチンコにまつわる物語、新遊技機の紹介など興味を持たれる題材を網羅する提案、併行して業界の正確なデータを提供するサイトも立ち上げるとしている。これらの案について意見交換され、今後更に協議を詰めていくことになった。

報告事項として、27日に発表された21世紀会の「安心娯楽宣言」、遊技機検討WGの進捗状況、「ニコ超」への日遊協ブース出展計画などが説明された。



新体制でのスピードアップを確認した活性化委員会